

第1回地域力・つながり部会

日 時 平成21年7月14日（火）午後6時30分

場 所 川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

委員 6人

星川孝宜、藍原晃、猪熊俊夫、島田潤二、朴栄子、吉野智佐雄

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影の事務連絡一覧を資料にまとめたことを説明、出席者の紹介>

2 議 題

（1）課題解決に向けた取り組みの具体化について

部会長 実行計画における各取り組みの状況について説明したいと思います。

「解決策」の1つ目、「スポーツを通じた交流の実施」はカローリングの件で、カローリング教室と体験会を実施することになりました。カローリング教室は、川崎市立体育館で、7月31日の金曜日を皮切りに、8月を除いて延べ5回、9月から12月にかけては毎月第3水曜日の夜間、18時30分から20時まで行います。体験会は10月12日の月曜日、10時から15時までの間行います。

2点目、「シニア世代の地域活動参加促進ツアーの開催」は、今日の部会で全体像が見えるようなものに仕上げたいと思います。東海道川崎宿の見どころを徒歩でめぐるウォーキングについて後ほど検討させていただきたいと思います。

3つ目、「『地域の縁側』の支援」は、全体会議の後、特に進んでいません。「地域の縁側」事業は確か13カ所で実施しており、それぞれ特徴を生かした活動をしていますので、PRを含めて支援していこうというものです。

4点目、「防災訓練（防災フェア）への外国人市民や障害者などの参加促進」は、後ほど具体的な議論をしていきたいと思います。

5点目、「東扇島東公園防災施設の視察」は、東扇島で9月1日の「防災の日」に八都县市合同防災訓練が行われます。施設見学を含めて実施していこうと考えています。

6点目、「外国人市民向けメルマガの配信」は、聞くところによると、既に7月9日に配信されたということです。朴委員に深くかかわっていただいていますので、現在の登録状況や配信内容などを報告いただけるとありがたいです。

委員 今、全部で79名の登録があります。もともとコミュニケーションボランティアで実

験的に1年間やっていたので、それが6月30日で67名いました。7月1日からチラシを配ったりして広報するようになりまして、7月1日から12日現在で12名の申し込みがありました。やさしい日本語が23名、英語21名、スペイン語17名、ポルトガル語9名、中国語9名という内訳になっています。

このチラシがそうです。これがいろいろなところで配られるようになりまして。今までは川崎区生活多言語情報という名前で送っていましたが、メルマガ『インターコムかわさきく』として配信が送られるようになりまして。週1回で始めましたが、情報量が多いと読まないということで、1つのものだけお知らせするようになりまして、週3回ぐらい流すようになります。日にちの近いものから流していきますので、今回はいつでも誰でもコンサートと大師のものと2回送られています。

部会長 我々の部会から出た解決策が具体的に動き出したということですね。

最後の「外国人市民向け広報の充実、強化」は、まず川崎区ホームページの外国人市民向けのページを充実強化していこうというものです。

「シニア世代の地域活動参加促進ツアー」についてですが、実施時期や参加対象について、今日ぜひ決めたいと思っています。

昨年はシニアパワー部会で、これに類する事業をしています。マリエンで講演会を行ったり、バスで東電などの企業視察を行ないました。今年度、今のところ決まっているのは、ウォーキングによる見学ツアーをやるということだけです。それをどのようにして実施していくかを決めたいと思います。

それでは、開催時期、プログラム、広報の方法について、各委員からご意見をいただけるとありがたいのですが。

事務局から何か補足はありますか。

事務局 特に補足はないですが、目的と実施方法については既に実行計画に載っています。

それ以外のどのように実施していくのか。時期も含めてご議論していただき、その結果を歴史ガイド協会と契約する際の仕様書に反映していきたいと考えています。

部会長 実施方法にあたっては、NPO法人かわさき歴史ガイド協会に区役所から協働型事業として委託することになっています。ガイド協会は、今までの活動の中でノウハウをお持ちですので、吉野委員の頭の中には既に実施方法ができ上がっているかもしれません。ただし区民会議の事業なので、ほかの委員の皆さんの声をできるだけ反映することによって、よりよいものに、場合によっては新しいツアーになるかもしれません。ほかの委員の方からご提案も含めてご意見をいただけるとありがたいと思います。去年は、午前と午後を分けて、午前中にはいろいろな市民活動団体の紹介をしました。

事務局 あと、川崎の臨海部の歴史を長島先生に紹介していただきました。

部会長 去年は私も参加しましたが、ツアーに参加された方は、基本的には地域活動をあまりされていない方で、まちのことをあまりご存じない方々だったので、非常に大きな発見がありました。港湾局のご協力で船にも乗りましたので、非常に喜ばれ、参加者の顔が輝いていたような印象でした。

いろいろな市民活動を知る1つのきっかけに、今回のツアーを活用できないかと考えています。

事務局 なかなか意見も出てこない部分もあるので、「開催時期」をいつにしようかとか、項目ごとに皆さんで決めていただけたらいいと思います。

部会長 「開催時期」はいつごろが適当か、参加者の募集との関係で考えてみてはいかがでしょうか。市政だより川崎区版に募集案内を載せることを前提にすると、掲載月を10月1日号とか11月1日号としたとき、企画案としてはいつ頃までに固まっていなければいけないのでしょうか。

事務局 翌月の15日前までの事業は、広報紙に掲載することはできますが、それ以降になると、その翌月になるとか、事前の調整、紙面の構成とかが出てきますので、2カ月ぐらいが必要です。あまり間に募集をかけても集まらないこともあるので、2カ月ぐらい前に掲載できればと考えています。

部会長 一番早くても10月1日号の掲載ですか。そうすると、事業の実施は早くても10月の末ですね。

事務局 10月末はちょっと厳しいと思います。11月になると思います。

部会長 そうすると、参加者にとって、12月の寒いころよりは、季節のよいときのほうがいいので、おおむね11月ぐらいでよろしいですか。

各委員 異議なし

部会長 平日開催と土日開催では参加層が随分と変わるように思いますが、割と時間があるシニア世代が対象だと、土日に絞らずとも平日のほうがいいのでしょうか。旧東海道

は道幅が広いわけではないので、ウォーキングするに当たって交通量の少ない土日のほうがいいのか、その辺はいかがでしょうか。

事務局 ちなみに去年は平日にやりました。結構応募いただき、平日開催でも何ら問題はないと思います。特に対象の方が第一線を引いている方ですから平日開催でもいいのかと思います。今回は東海道を歩くので、交通の問題とかもろもろの部分でどうなのか。その辺は吉野委員にお聞きしたほうがいいのかと思います。

委員 曜日はむしろ相手先にもよりますが、どの辺まで踏み込むか。例えば、一行寺の大山道もあれば、教安寺はちょっと珍しい螺鈿のふすまで飾られています。そういうものを見ようとするとウィークデーです。土日は法事がありますので。人が集まるということでウィークデーでも余り差はないとしたら、ウィークデーのほうがよろしいとは思いますが。

部会長 開催時期は11月の平日で、協会との兼ね合いで決めていただくということで、よろしいでしょうか。

委員 ガイド協会は、早目に日にちが決まっていれば調整はききます。

部会長 「参加者」は、ツアーのタイトルにもシニア世代と入っていますので、そういう方々が対象ですが、区民という縛りはかけますか。

事務局 川崎区区民会議の課題解決の事業という意味では、区民を対象にしたほうがいいのかと思います。

部会長 シニアという打ち出し方はできますか。50歳以上というシニアの定義めいたものはありますが、おおむねでよろしいでしょうか。

事務局 年齢で制限してしまうのは難しいところです。逆にシニア向けのツアーということで、特に年齢制限はしないほうがいいのかではないでしょうか。

部会長 シニアかどうかは参加者自身に判断していただくことにいたしましょう。

委員 何回か分けてやるということをやれば、少しブロックを分けて参加させるのがいいのではないかという気がします。今実態を区民にわかっていたいただきたいのが手をつな

ごうということであるわけです。関心を持ってもらおうという気持ちからすると年代は関係ないです。また、いつも同じような人が同じような形で参加するのではなく、知らない人に参加してもらえるように、少しやり方を考えたらいいのかという感じがします。

部会長 地域活動を知らない方々に参加してもらおうという趣旨で、昨年実施したときにはそれなりに人数が集まりました。地域の活動を既にされている方ではなく、これから自分たちは何かしたいという意識の人、自分のまちを知りたいという前向きな方々が多く参加されたように思います。関係者に声かけしていくと、知っている人ばかりの集まりになりがちです。前は非常にまれないいケースだったと思いますが、もう1度同じような方法をとって見てはどうかと。

島田委員からもう少し回数を増やしたらということですが、その辺はいかがですか。

委員 これは徒歩で回るのでどのくらいの人数が果たして可能なのか。横断歩道も狭いところもあるし、交通量の多いところもあるしといったことで、応募人員もかなり制限されてくると思いますが、その辺はいかがですか。

部会長 例えば10人ぐらいのグループでガイドの方が案内するような方法だと、マックス（最大）でどのくらいの人数になりますか。

委員 一番無理ない人数は1班7名ぐらいです。10名ぐらいでもできますが、理想的なのは7名ぐらいのほうが目が届きます。

委員 特に旧東海道は歩道が狭くて、自転車その他の通行が多いので、その事故が一番懸念されることです。もし車いすでこれに参加された場合はどうか。その辺も考慮しておいたほうがよろしいと思います。

委員 車いすで参加したいという方がいると思いますが、我々は支援できる体制になっていないですから、どなたか付き添っていただいたほうがいいです。

委員 車いすは危ないですか。

委員 危ないです。旧東海道は、我々が歩いてみても、特に川崎小学校のあそこの歩道あたりは狭くなっていて危ないという気はします。それをうまく誘導できれば、この事業はすばらしいだろうと思います。

事務局 先日も吉野委員ともお話しさせていただきましたが、7名から10名程度を何班もつくって、そろったところからどんどん出発していくという形をとるそうです。そうすると、例えば10班ですと100名まで対応できますし、ある程度の数は対応できるのではないのでしょうか。

プログラムの的には、地域活動促進ツアーですので、午前の部分では、地域の活動を皆さんに知っていただくことも必要になってきます。活動を紹介する場所としては、区役所の会議室で行う方向で考えています。

部会長 区役所が出発点だとすると、ウォーキングするに当たっては、仮に7名で10組でも20組でもというわけにはいかないですね。

委員 午前にそういうふうにイベントがあって、スタートがほとんど同地点になると、ある人は八丁畷から、ある人は六郷土手から、ある人は真ん中からという工夫をしないと重なります。

部会長 区役所の会議室には、何人くらい入れますか。

事務局 この3つの会議室トータルで、パーテーションを取ると、100人ぐらいは収容可能です。ただ、かなり遠くなってしまいます。

部会長 「参加者」は区民のシニア、人数は会議室のキャパシティで決まるということでしょうか。

副区長 ガイド協会のほうは、案内人の限度はなくてよろしいのですか。

委員 70～80人ならガイドは10人です。班が7つ、8つになると、調整のコーディネーターが自転車で回って、臨機応変になるべく重ならないようにはしています。

部会長 ちょっと気がかりなのは車いすの方で、特に防災とか障害者の方をどうしようという話は常に話題になっています。ガイド協会の活動としては受け入れていないとのことですが、区民会議として委託するときには、果たしてそれでいいのかどうか、整理しておいたほうがよいと思います。

事務局 車いすの方は介助者をお願いしますと募集のときに制限をかけてしまうのか、その対応は区でしますとか、その辺はきちっと決めておいたほうがよいと思います。

副区長 区民対象なので受け入れはしていきたいと思います。

委員 今まで車いすの方を受け入れたことはないです。区民会議としては積極的に身障者も受け入れていこうと。

副区長 車いすだけではなく、聴覚障害者もいます。

委員 介護者つきであれば大丈夫だろうと思います。

部会長 障害者でもいろいろな方がいると思います。聴覚障害の方は手話の方が介添えにつけば間接的に会話が成立します。参加者については、なるべく広く門戸は開いておくということでしょうか。

委員 介助者をつけてとか、自分で手話通訳の人を見つけてとかなら参加できますというのはなかなか参加できない。せめて手話通訳の方ぐらいまでは、区民会議のほうで準備されたほうが参加しやすいと思います。当事者の方につけてきてください、私たちは拒みませんといっても、結局は拒まれているのと一緒にです。全部はできないかもしれませんが、手話通訳はいますとか、介助者のいない場合はご相談くださいとか、そういうような形があると、もう少し参加しやすくなるのかという感じはします。

事務局 それだけの体制が整えられるのであれば、そういう表現で募集してまいりたいと思います。

委員 車いすの方を押すボランティアを募集するとか、区社協にボランティア派遣がありますとか横のつながりをつけていくと、参加できるかもしれないです。あと、高校には今、福祉課があります。体験学習みたいな形でリンクしていただいたりとかすれば、高校生がやってくれる可能性だってあるのではないですか。ただ、日にちによりますが。

部会長 今まさにそういうことを区民会議で取り組まなければいけないと思います。我々の部会のテーマは、「手をつなごう、地域のつながり」です。大変なこともあるかもしれませんが、今までまちを歩けなかった人がこの機会に歩けるようになったとか、このような取り組みをすることが区民会議の役割ではないかと。個別案件として100%受け入れられるかどうかはわかりませんが、気持ちとしてはそのような方向を目指したいと思います。

委員 車いすを押しているとか、手話でやっている人を見ると、若い人がやっています。

部会長 このツアーの参加者はシニアに限定していますが、介助する人は若い人でいいわけです。そうすると、若い人たちと高齢者との交流の場ができたりしますね。

委員 残念ながらそういうボランティアがどこにあるのかわからないのです。

副区長 事務局で当たります。

部会長 受託するのはガイド協会かもしれませんが、事業を実施するためにいろいろな人が関係することになります。

副区長 外国人支援施策も川崎区特有で、区独自の特徴を出したつながりができていくといいと思います。

部会長 外国人市民向けのメルマガで、すぐにでも案内を出すこともできます。

委員 平日の昼間に参加できるとなると、子育て中のお母さんたちになってしまうと今思っているのです。

部会長 参加者が多い少ないは別にして、参加資格はシニアです。ただし、シニアは年齢で縛るものではなくて、シニアだと思っている人ならだれでもいいことにします。車いすの方も外国人もみんなウェルカムです。

委員 そういう部分があると、無制限の70～80人より少し少ないほうがいいと思います。というのは、歩行スピードが随分変わってくると思うので、人数を少し考え直したほうがいいかもしれません。

部会長 参加状況を見てみないとわからないですね。

午前中に会議室で、いろいろな市民活動の活動内容を紹介していただくような場合に、団体をある程度絞り込んだほうがよろしいですか。

事務局 何をやるかをある程度決めておいていただければ、あとは事務局である程度調整はできると思います。

部会長 午後のウォーキングは、例えば、八丁畷から六郷土手までですと、時間としてどのぐらいかかりますか。

委員 八丁畷から六郷土手へ行って稲毛神社まで戻ってくるというルートで行きますと、ゆっくり歩くと2時間半ぐらいかかってしまいます。ですから、川崎宿全部見なくても、せいぜい教安寺あたりまでです。

皆さん同じようなものを同じように感じていただくには、我々ガイドツールで紙芝居方式を持っています。例えば京口といたって、全然見当がつかないです。写真で見て、こんな感じですよというやり方をしています。逆に言うと、時間がどのぐらいとれるかで中身が変わってくると思います。それと、障害者も含むと、スピードが相当遅くなることを考えると、先にコースありきでやるよりいいのではないかと思います。

これは事務局にお願いですが、稲毛神社には棟方志功の絵があるし、教安寺も先ほど言ったようなものはふだん常時公開していません。行政のほうから声をかけてはどうか。

部会長 おさらいする意味で参考1をごらんいただきたいと思います。

我々が今、何を検討しているかという、「課題」として「人づくり、世代のつながり」を取りあげ、その解決策の一つに「シニア世代の地域活動参加促進ツアーの開催」を決めてきたわけです。「取組内容」は「シニア世代の地域活動への参加を促進するため、地域活動の紹介や地域の魅力の見学などをするツアーを実施する」で、「ツアーを実施する」というところを歴史ガイド協会に委託しようということです。

前段の「地域活動の紹介」について、検討したいと思います。午前中は会議室で、いろいろな団体に自分たちの活動内容をプレゼンテーションしてもらってはどうかという話です。午後のツアーは、吉野委員と区役所とで相談され、企画を練っていただくということです。午前の部について、ほかにもこんな方法があるとか、団体を訪問したらいいとか、皆さん、どのようにお考えですか。

委員 これは思いつきですが、「人づくり、世代のつながり」で3つのグループに分かれています。上のグループと下のグループを実際に紹介するのはいかがですか。例えばカローリングは、見た人は圧倒的に少ないのではないかと思います。

縁側をやっている方は社会福祉協議会の方が圧倒的に多いのですか。

事務局 さまざまです。

委員 そういう縁側の紹介は余り例を見ないような感じはしています。どこそこはこんな

のを主体でやっていますと市民交流会によく出ていますね。

事務局 縁側の紹介をしてもらうことはいいと思います。

委員 午前中の発表のときには来ていただいたほうが。

事務局 来ていただいて説明していただく分には一向に構わないことと思います。

委員 ここで幾ら発表されても、実際に行かないと様子はわからないと思います。

事務局 実際に行ってみることはできなくても、パワーポイントを使って皆さんに見てもらい工夫はできると思います。

委員 午前中もし1時間半使うとしたら、プレゼンするのを20分とっても9団体ぐらいしかいないと思いました。川崎区の地域活動はどんなものをイメージされているのかが今わからないですが、シニアの方たちが自分たちで何か活動しているようなグループを紹介するのですね。

事務局 そうです。

委員 そうすると、結構な数あると思います。模造紙とかで自分たちのグループを紹介しませんかみたいな形で、写真とかを張っていただいて発表するのと、プレゼンしたいグループと募集して、こちらが力を入れて紹介したい地域の縁側、カラーリングなどは実際にプレゼンしていただく。私の地域だと、うちの愛護会の人たちは発表したらいいのにと思ったのです。5個とか6個ぐらいプレゼンのものを用意して、あとは周りで見られるよう形にすると、たくさん紹介ができると思います。そういう2つにして、川崎区のいろいろな活動しているところに募集をかけてはどうですか。

部会長 今のお話は、できるだけ多くの団体に機会を与えようという考えだと思います。時間枠はどのぐらいですか。

事務局 2時間か2時間半ぐらいを考えています。

部会長 いくつの団体に登場してもらうか。時間をとってできるだけ重点的に説明してもらいやり方と、一方、短い時間でできるだけ多くの団体を紹介するやり方がありますが、

その辺はある程度決めないといけない。先ほど島田委員が「現場を見ないとわからない」と言われましたが、現場と同じとは言えないものの、パワーポイントや映像で活動の見せ方のできる団体に絞るとか。

委員 ウォーキングは団体に申し込むのですか。

事務局 原則個人です。

部会長 参加者は、午前も午後も個人が対象です。午後の部はまち歩きに参加する。午前の部は、いろいろな団体の人に来ていただいて、自分たちの団体はこういう活動をやっています。もしよかったら入会しませんか、という感じです。

委員 どういう団体が来て、何をやっているのか。それで関心を持ってもらうのはいいことだと思います。

事務局 シニアで第一線を引かれた方がそういう団体を紹介してもらって、ぜひやってみようかと入って行って活動が広がっていく。それが1つの目的だと思います。

部会長 恐らく既存団体でも、メンバーがずっと変わらずに、活動も停滞しているようなところがあるように思います。そういうところに新しい人が入ってきて活性化する。また、その人にとっても、このツアーに参加したことによって、自分の居場所を発見できる。まさに区民会議が果たすべき役割です。したがって、いろいろな団体に参加していただいたほうが選択肢があっていいという気がします。

事務局 区民会議委員の皆さんがかかわっている団体もあります。そういう団体に区民会議委員から声かけしていただいて、プレゼンをしてもらうやり方もあると思います。

部会長 縁側事業もカラーリングも知らない人のほうが圧倒的に多いと思います。したがって、PRの場として5分でも10分でも結構ですので、1コマほしいと思います。カラーリングへの理解はビデオを見せるだけで絶大な力になると思います。

事務局 団体の紹介の合間ぐらいに、ビデオを見てもらうのもありかと思います。

部会長 できれば話よりも視覚に訴えるなど、わかりやすいほうがいいと思います。

事務局 地域で活動されている団体は、高齢者を対象にしている団体、障害の方を対象に

している団体、子どもたちを対象にしている団体、文化的なことをやっている団体など、さまざまジャンルがあると思います。そういうところから出ていただいて紹介していただければいいかと思います。

部会長 公募したら、手が挙がり過ぎてしまうということはないですか。

委員 「のり」を学校に行って教えるグループの方もいたり、結構いろいろなグループがあるので、それを引き出すような公募の仕方を。

委員 新聞の募集するのはこのタイトルですか。募集要項はどういうふうになるのか。東海道のもっと魅力のあるところを歩きますというのを書いておかないと、ただ漠然と東海道だけでは人が集まらないのではないですか。

委員 おっしゃるとおりです。漠然と東海道を歩きますよでは。

委員 ここへ行ってみようかと思うことが書いていないと集まらない。

事務局 それは広報の中でポイントを載せるような形で考えていきたいと思います。

部会長 今日の部会では、シニア世代の地域活動参加促進ツアーに加え、「防災訓練（防災フェア）への外国人市民や障害者などの参加促進」も11月に予定しているため、中身をあらかじめ詰めたと思っています。ということで、シニア世代の地域活動参加促進ツアーについてまとめに入ります。

プログラムは、11月の平日の午前と午後で、午前中は、区役所の会議室でいろいろな市民活動団体の紹介をする。区民会議のPRタイムもぜひ入れたいですね。

参加団体の数が決まると持ち時間も決まってくると思いますが、事務局で、プレゼンに違いができるような団体をぜひ選んでいただきたいと思います。広報は、市政だよりをはじめ、ホームページやメルマガもあるでしょうし、町内会へのルートで流すという方法もあります。

事務局 持ち帰っていただいて、こんなことを区民会議で考えているので、ぜひ参加してほしいと各町内会で呼びかけをしていただいてもよろしいかと思います。

部会長 広報はあらゆる手段を通じてPRしていくことにしましょう。恐らくそのPRが

目にとまれば、認知度が低いと言われている区民会議にとってもよいことかと思えます。

次に、「防災訓練（防災フェア）への外国人市民や障害者などの参加促進」について検討したいと思えます。「目的」は「外国人市民や障害者などの参加を促し、実際に災害が発生したときの状況を地域の人と一緒に体験する取り組みを通じて、災害時に支援するうえでの課題を把握する。」です。「実施主体」は具体的に大島地区連合町内会のご協力を得て実施することになっています。「開催時期」も11月と伺っていますが、よろしいですか。

委員 11月22日日曜日の予定です。

部会長 時間帯もある程度決まっているのでしょうか。

委員 一応9時から正午までとなっています。

委員 どこでやるのですか。

委員 向小学校です。

事務局 今回の大島地区連合町内会でやっていただけるこの訓練に外国人の方、障害者の方に加わっていただくということで、どのような訓練をしたらいいのか皆さんでご議論いただければと思います。

部会長 防災訓練はいろいろな地区でされていますが、外国人や障害者が大勢参加しているところはむしろほとんどない。今回の試みはそこがポイントだと思います。

事務局 防災訓練は毎年行われるわけですが、最初から難しいことをやるのもどうかと思いますので、今回は、障害の方、外国人の方にどういう訓練なのか、今何をやっているかを見ていただければと思います。また、それに参加したいということであれば、ちょっとそこに入れていただくとか。来年はもう少しかわり方を深めてもらう。そのような形の方法は考えられないでしょうか。

委員 今までうちのほうでやってきたのは、救急救命士の訓練、瓦れきをジャッキで持ち上げて人形を救うこと、煙の体験と起震車の体験。学校にプールから分団のミニポンプで水を出す訓練とか、そういうものは結構やっています。それと、アルファ米の炊き出し、学校の水道が出ないことを想定してボトルの水を1本ずつすぐ与えてあげるとか、

そういう訓練をしてきました。

委員 例年やっていることに外国人とか障害のある人が参加することによって困ることがあります。先ほどの名前を書くことでも、名前が書けなかったりとか、書くのがアルファベットだったりとかハングルだったりします。そういうことを経験することによって、何を準備したらいいかが次年度にわかります。実際に何が困るのかを経験すると、実際地域にはこの人たちがいるのだから、何を準備したらいいのかということがわかると思います。通訳がいなくても手ぶり身ぶりとかでも通じたりします。通訳が来ることは災害時にはあり得ないことなので、今、おなかが痛いのですか、どこが痛いのですかと指し示すものがあれば、クリアできたりするかもしれないことを経験してみる。車いすの人をどう動かしたらいいのかということを経験する意味で、今までやっていらっしやるところに外国人と障害のある人たちも一緒に参加してみるといい。

委員 今、川崎に住んでいる外国人の人は日本語が話せるのですか。

委員 話せない方たちがたくさんいます。今、インターネットで探すと、特に関西の地震のときには、神戸で外国人がたくさんいましたので、その後、防災情報の多言語はすごくあふれています。

委員 例えば組み立て式のトイレがあります。そういうところにも、ハングル文字で何と書くかとか、そういうものを書いたものを欲しい。

委員 区のほうにそういうのはちゃんと準備しておいてくださいとお話しして、各地域に防災のしまつてあるところに、簡単な用語の多言語のA3ぐらいの紙を準備しておいていただけたら、通訳さんがいなくても大丈夫になります。

委員 多言語でやるよりは、トイレの案内は男も女も世界で共通です。ああいう絵画式のほうがいいと思います。

委員 表示できるものはどんどんと。それではできないものがあるので、そういうものとか。

委員 今、簡単にトイレができます。例えば、学校では隅にスコップで掘って、板を2本渡し、シートを周りへかければできます。ビスで組み立てるトイレもあります。

区役所へ頼んでもすぐ来ません。大きな災害があったら、一番近くにいる我々がそう

いうことは率先してやらなければだめです。役所はあてにならないです。我々がやっていることをすぐやらなければ間に合わないです。

事務局 今回、大島地区で訓練をやりますが、外国人に声かけをする場合、大島地区に住んでいる方に声かけをするのか、メルマガで広く川崎区内に住んでいる方に声かけをするのか。その辺はきちんと押さえておいたほうがいいかと思います。

委員 川崎にいる人に来てもらって訓練を一緒にすればいいと思います。

事務局 メルマガで一斉に情報提供しても、あまり遠いところからは来ないので、基本的に地区の周囲の方が集まってくるのかとは思いますが。

副区長 障害者に参加いただく方法は。

事務局 大島地区で障害者の団体があつて、そういうところを通じて声かけをしてもらって集まっていたらどうか。

委員 それは話しておきます。

部会長 これはやってみないとわからないところがあります。わからないことを感じる場であり、発見する場です。

委員 4階建ての市営住宅がありますが、この間、竹2本と毛布でつくった担架で人を下へおろす訓練をやりました。

委員 それができれば大変いいことだとは思いますが。気持ちを皆さんが分け隔てなく、そういうのに参加できましたよというのが実際にあれば本当につながりです。

部会長 防災訓練への外国人市民や障害者の参加促進については、まとめまではいきませんでした。問題提起はできたと思います。いろいろな取り組みが必要になるでしょうが、藍原委員も連合町内会との話し合いの場でご検討いただきたいと思います。その検討結果も含めて、9月中に部会をもう一度開き、もう少し詰めていければと思います。できるだけ多くの外国人市民の方、障害者の方に参加していただいて、「こういうことをどうにかしないと大変なことになる」という具合に、従来にない防災訓練になろうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

参考2には、昨年度、実行計画を策定するに当たって、継続的に審議していこうとか、ちょっと時間をかけてやりましょうというものをまとめてあります。初年度では消化できなかったが、2年度目にこういう手法でやれば実行可能だというものがあれば、次回の部会で検討していきたい。次回への宿題といたします。

また、「手をつなごう、地域のつながり」の中で、新たな取り組みとして検討してはどうかというものがありましたら、次回に提案していただきたい。

さらに、「手をつなごう、地域のつながり」というキャッチフレーズのもとで、皆さんの地域にはいろいろな市民活動団体がありますが、非常にいい取り組みをしており、区内に普及させたい、知らせたいというものがありましたら、それも次回お出しいただきたい。

(2) その他

部会長 資料4ですが、6月2日の全体会議では、プロジェクトチームを作りましょうという話で終わったと思います。7月1日、第2回幹事会で、課題解決の実効性を高めるための方策を検討する部会の設置を決定して、部会員の構成について検討しました。

この部会で何をやるかは「2 検討する内容」に示してあります。まず、的確な地域課題の選定が行なわれているのかどうかという視点。2点目は「委員の選任方法」について、今2期目ですが、今までの選任方法でいいのかどうか。20人の委員がいるわけですが、団体推薦、公募を含め再検討してみよう。3つ目は「区民会議のPR」について、ある調査によると、区民会議の認知度は20%ですが、より普及させるにはどうしたらいいか。4つ目は「任期と予算化サイクル」について、任期は2年間です。2年間で検討したものが、翌年度に予算化されるかということ、そういう状況になっていません。その辺をどうしたらいいか、などについて、プロジェクトチームで検討していきたいと考えています。

部会の構成としては、人数は7人で、少人数で活発に議論していこうという趣旨です。構成は、荒井副委員長、部会長2名、各部会から2名ずつ選出してはどうかということになりました。今日はこの場でお二人の委員を決めさせていただきたいと考えています。部会運営、進め方は、今後、部会で決定していくということです。自薦とか他薦、お出しただけだと。

部会長 朴委員と宮崎委員、お二人に参加していただくことでよろしいでしょうか。

各委員 異議なし

3 閉 会

部会長 どうもお疲れさまでした。

午後 8時45分 閉 会